ミサがわかるセミナー　2022～2023 シリーズ

《年間テーマ》あらためて学ぶミサの意味
～～新しい式次第の解説とともに～～

第２回　　開祭とことばの典礼　　2022年7月10日（日）　（担当　石井祥裕）

ミサの新しい式次第と式文の解説を聞きながら、「感謝の祭儀」としてのミサの意味をあらためて学んでいこうという今年のシリーズ、今回から式次第の流れに沿ってお話を進めていきます。最初は「開祭とことばの典礼」です。今回変わるところも変わらないところも含めて、「開祭とことばの典礼」の部分が示す、ミサの姿をしっかりと学び、わたしたちの参加と奉仕の心を養うことができればと思います。

【開　祭】

入祭の歌と行列

（注記）会衆が集まると入祭の歌を歌う。その間に司祭は奉仕者とともに祭壇へ行く。

＊会衆の集まり：「会衆とともにささげるミサ」がミサの本来の姿、基本型であること
＊入祭の歌：「 会衆の一致を促し、会衆の思いを典礼季節と祝祭の神秘に導入する」（総則27）

祭壇の表敬と会衆へのあいさつ

＊司祭と奉仕者の祭壇への深い礼、司祭の祭壇に触れながらの深い礼
（祭壇への表敬が象徴するキリストの現存）

＊司祭と信者が十字架のしるしをする

司祭：父と子と聖霊のみ名によって。　　会衆：アーメン。

唱句：父と子と聖霊のみ名による洗礼を受けたキリスト者のあり方を明らかにする
感謝の祭儀（ミサ）が父と子と聖霊の交わりである神との交わりの行為であること
In nomine「み名によって」＝（み名のうちに、み名と結ばれて＝その存在と結ばれて）

応唱「アーメン」（ミサを通して重要）（ヘブライ語発音「アァメーン」
語源　エメト（真理・真実・誠）⇒エムナー（確信・信頼）⇒アァマン（頼りになる）
⇒「たしかに、まことに、ほんとうに」といった意味
イエスの教えの冒頭で告げるアーメン＝「はっきり言っておく」（新共同訳）
典礼での「アーメン」の役割 ＝　信仰宣言・賛美・願いへの確認的同意
（「ほんとうに」そう信じます/そう賛美します/そうなりますように）
「神の民」の信仰宣言、賛美、願いを仕上げる重要な応唱句

続くあいさつの対話句

（これまで）

司祭：主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが皆さんとともに。
または
主イエス・キリストによって、神である父からの恵みと平和が皆さんとともに。
または
主は皆さんとともに。
会衆：また司祭とともに。

（新式文　［太字　新］）

司祭：主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが皆さんとともに。
または
父である神と主イエス・キリストからの恵みと平和が皆さんとともに。
または
主は皆さんとともに。
会衆：またあなたとともに。

このあいさつの意味

＊旧約の背景　：神の民の間でのあいさつ句（ルツ２・４）

「主があなたたちと共におられますように。」「主があなたを祝福してくださいますように。」

主である神がともにおられることをともに確認し合う対話句

＊新約聖書の使徒的あいさつ（「手紙」冒頭や結びのあいさつ文）

パウロの手紙の初め、終わりのあいさつ

「わたしたちの父である神と主イエス・キリストからの恵みと平和が、

あなたがたにあるように。」（ローマ1・7等）　⇒上記２の唱句

「主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、

あなたがた一同と共にあるように。」（二コリント13･13）⇒上記１の唱句

他の用例

「わたしたちの主イエス・キリストの恵みが

あなたがたの霊と共にあるように。」（ガラテヤ6・18）

＊重要なのは：神が、主キリストが、

わたしたちとともにいることを相互に確認し、宣言し合うこと

⇒もっとも簡潔な信仰宣言であり、宣教行為でもあること

＊ミサの式次第における同様のあいさつ対話句　全５回：

開祭	（集いにおられる主）
福音朗読の前	（福音におられる主）
奉献文の導入（叙唱前のあいさつ）	（自らをわたしたちとともに奉献される主）
平和のあいさつの導入	（ご聖体におられる、平和の源である主）
派遣の祝福の前	（わたしたちを派遣される主）

＊会衆の応唱句の変更の理由（原文 Et cum spiritu tuo.）

直訳　「またあなたの霊とともに（ありますように）」

従来式文「また司祭とともに。」の理由

新式文　「またあなたとともに。」の理由　　聖書的な対話のニュアンスに回帰

回心の祈り

＊司祭の回心の祈りへの招きが典礼季節に応じて多様に（日本固有の適応）

回心の祈り１　一部変更　（太字）

一同：　全能の神と、兄弟姉妹の皆さんに告白します。
わたしは、思い、ことば、行い、怠りによってたびたび罪を犯しました。
聖母マリア、すべての天使と聖人、そして、兄弟姉妹の皆さん、
罪深いわたしのために神に祈ってください。
司祭：　全能の神、いつくしみ深い父がわたしたちの罪をゆるし、
永遠のいのちに導いてくださいますように。
会衆：　アーメン。

回心の祈り２　（これまで）

司祭：　神よ、
会衆：　罪深いわたしたちをあわれみ、
いつくしみを示し、
救いをお与えください。
司祭：　全能の神がわたしたちをあわれみ、
罪をゆるし、
永遠のいのちに導いてくださいますように。
会衆：　アーメン。

（新式文）

司祭：　主よ、あわれみをわたしたちに。
会衆：　わたしたちはあなたに罪を犯しました。
司祭：　主よ、いつくしみを示し、
会衆：　わたしたちに救いをお与えください。
司祭：　全能の神、いつくしみ深い父が
わたしたちの罪をゆるし、
永遠のいのちに導いてくださいますように。
会衆：　アーメン。

回心の祈り　3　新しい「いつくしみの賛歌」と組み合わせる形（略）
典礼季節に応じての多様な式文を用意（日本固有の適応）

いつくしみの賛歌（キリエ）＊「あわれみの賛歌」から名称変更　／文語⇒現代語へ

（これまで）

先唱：　主よ、あわれみたまえ。
会衆：　主よ、あわれみたまえ。
先唱：　キリスト、あわれみたまえ。
会衆：　キリスト、あわれみたまえ。
先唱：　主よ、あわれみたまえ。
会衆：　主よ、あわれみたまえ。

（新式文１）

先唱：　主よ、いつしくみを。
会衆：　主よ、いつくしみをわたしたちに。
先唱：　キリスト、いつしくみを。
会衆：　キリスト、いつくしみをわたしたちに。
先唱：　主よ、いつしくみを。
会衆：　主よ、いつくしみをわたしたちに。

（新式文２）

先唱：　キリエ、エレイソン。
会衆：　キリエ、エレイソン。
先唱：　クリステ、エレイソン。
会衆：　クリステ、エレイソン。
先唱：　キリエ、エレイソン。
会衆：　キリエ、エレイソン。

ギリシア語の賛歌（左）がラテン語典礼にも受け継がれている。単に願いだけでなく、主を迎える賛美の叫び（歌）であることが重要。日本語の「あわれみ」だけでは表せない意味内容を考えるために「いつくしみ」へと訳語が変更されている。
（⇒栄光の賛歌、平和の賛歌にも関連）
多様な歌を歌える可能性が開かれている。

栄光の賛歌（グロリア　＊文語を現代語へ（一部文語も残されている）

（これまで）

天のいと高きところには神に栄光、
地には善意の人に平和あれ。
われら主をほめ、主をたたえ、
主を拝み、主をあがめ、
主の大いなる栄光のゆえに感謝し奉る。
神なる主、天の王、全能の父なる神よ。
主なる御ひとり子、イエス・キリストよ。
神なる主、神の小羊、父のみ子よ。
世の罪を除きたもう主よ、
われらをあわれみたまえ。
世の罪を除きたもう主よ、
われらの願いを聞き入れたまえ。
父の右に座したもう主よ、
われらをあわれみたまえ。
主のみ聖なり、主のみ王なり、主のみいと高し、
イエス・キリストよ。
聖霊とともに、父なる神の栄光のうちに。
アーメン。

（新式文）

天には神に栄光、
地にはみ心にかなう人に平和。
神なる主、天の王、全能の父なる神よ。
わたしたちは主をほめ、主をたたえ、
主を拝み、主をあがめ、
主の大いなる栄光のゆえに感謝をささげます。
主なる御ひとり子イエス・キリストよ。
神なる主、神の小羊、父のみ子よ。
世の罪を取り除く主よ、
いつくしみをわたしたちに。
世の罪を取り除く主よ、
わたしたちの願いを聞き入れてください。
父の右に座しておられる主よ、
いつくしみをわたしたちに。
ただひとり聖なるかた、すべてを越える唯一の主、
イエス・キリストよ、
聖霊とともに、父なる神の栄光のうちに。
アーメン。

＊賛美の叫びの連なりから構成されている伝統的賛歌
＊賛美のうちにも願いがある（主キリストとわたしたちとの関係性の表明）
＊新式文にも出ていない特徴　　主＝「あなた」の意味
　⇒　集いの中におられる主に向かって語りかける歌であること　歌う意識にとって重要
＊イエス・キリストのところで「頭を下げること」について
　総則275参照　頭を下げるだけの一礼＝「父と子と聖霊の名が同時に唱えられるとき、
　　イエス、おとめマリア、そのミサで祝われる聖人の名前に対して行う」

集会祈願　（開祭を締めくくり、その心を告げる、全体が広義の祈願）

司式者：　招き「祈りましょう。」
一同　：　（沈黙のうちに祈る）
司式者：　（狭義の集会祈願）　（本来は結びの祈り）
・・・わたしたちの主イエス・キリストによって。
一同　：　アーメン。　（総則54参照）

司祭が共同体を代表し、会衆は、沈黙と同意の句をもってともにささげる

例）復活の主日　（日中のミサ）の集会祈願
「全能の神よ、　（神への呼びかけ）
あなたは、きょう御ひとり子によって死を打ち砕き
永遠のいのちの門を開いてくださいました。　（神のみわざ、恵みの想起・告知）
主イエスの復活を記念し、この神秘にあずかるわたしたちを、
あなたの霊によって新たにし、
永遠のいのちに復活させてください。」　（神のみ旨に沿う願い）

※集会祈願の結びのことばに関する変更
これまで（総則54　旧番号32）（下線　講師）

父に向かう場合…「聖霊の交わりの中で、あなたとともに世々に生き、支配しておられる御子、
わたしたちの主イエス・キリストによって」
父に向かうがその終わりが子に言及されている場合…
「キリストは、聖霊の交わりの中で、あなたとともに世々に生き、支配しておられます」
(日本では、いつも「聖霊の交わりの中で……」を用いる。)
子に向かう場合…「聖霊の交わりの中で、あなたは父とともに支配しておられます。
世々に至るまで」

新式文

御父に向かう場合…
「聖霊による一致のうちに、あなたとともに神であり、世々に生き、治めておられる御子、
わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。」
御父に向かうがその終わりが御子に言及されている場合…
「主キリストは、聖霊による一致のうちに、あなたとともに神であり、
世々に生き、支配しておられます、世々とこしえに。アーメン。」
御子に向かう場合…
「あなたは、聖霊に聖霊の交わりの中で、あなたは父とともに支配しておられます。
世々とこしえに。　アーメン。

※元々はラテン語の文型の中での選択だったが、これからは日本語の祈願文
でも文脈に応じて使い分けが行われるようになる。
三位一体の神に対する信仰宣言が含まれていることが重要。

ことばの典礼
【聖書朗読】　＝　単なる朗読（文字の音読）ではなく、神のことばを告げ知らせること

参考　『朗読聖書の緒言』
「典礼祭儀は、神のことばそのものをたえず、完全に、力あるものとして示す」（４項）
「教会は神のことばを聞くことによってたてられ、成長していく」（同７項）
「すべてのキリスト信者は、霊による洗礼と堅信によって神のことばの使者となる」（同）

神のことばの「告知」とは、神に「答えること」でもあり、
「聴く」こと（自分に告げ知らせること）でもあり、世界の人々に「告げ知らせる」ことでもある

※神のことば: 救いの歴史、イエスの生涯と教え（キリストの神秘）が
典礼暦年に沿った聖書朗読配分によって豊かに告げられる
（聖書朗読の本文は、これまでどおり　『聖書　新共同訳』に基づく朗読聖書によって実施）

※朗読後のことばの変更（規範版に沿う形に）

第１（第２）朗読後

（これまで）

朗読者は朗読の終わりを示すために聖書に一礼する。
奉仕者は「神に感謝」と答える。

（新式次第）

朗読の終わりを示すため、朗読者は手を併せてはっきりと唱える。
朗読者：神のみことば。
会衆　：神に感謝。

福音朗読後

（これまで）

司祭（助祭）：キリストに賛美。
会衆　　：キリストに賛美。

（新式次第）

司祭（助祭）：主のみことば。
会衆　　：キリストに賛美。

【説教】

「ミサの祭儀における説教は、告げ知らされた神のことばが、感謝の典礼とともに『救いの歴史、またはキリストの秘義における神のすばらしいわざを告げ知らされるもの』となることを目指している。
（『朗読聖書の緒言』　24 項）

【信仰宣言】

信条、すなわち信仰宣言は、……集まった会衆が朗読と説教において聞いた神のことばに共鳴して答えるもので、感謝の典礼において信仰の神秘を祝う前に、教会によって承認された定式文によって信仰の基準を心に思い起こすためである」　（『朗読聖書の緒言』　29項）

※「信仰宣言」はここでは信条の宣言の意味。
典礼そのものが全体として信仰宣言であることにも留意
※受肉のところで、「深く頭を下げる礼拝行為」を実施（総則 275 参照）
「ニケア・コンスタンチノープル信条」
：「聖霊によっておとめマリアよりからだを受け、人となられました」のところ
「使徒信条」
：「主は聖霊によってやどり、おとめマリアから生まれ」のところ

【共同祈願】　Oratio universalis　（すべての人のための祈り）
または　信者の祈り　Oratio fidelium

共同祈願すなわち信者の祈りにおいて、会衆は信仰のうちに受け入れた神のことばに何らかの方法で答え、洗礼による自分の祭司職の務めを実行して、すべての人の救いのために神に祈りをささげる。
（『ローマ・ミサ典礼書の総則』69 項）